寄 稿

名誉会員のご指名を頂いて Nomination to an Honorary Member of JAWE

田中 宏*
Hiroshi TANAKA

この度は日本風工学会から名誉会員のご指名を頂き、驚かされましたが、大変に名誉なことと存じます。ご配慮下さった会員・幹事の方々のご好意に、心より厚く御礼申し上げます。

風工学とのお付き合いはもう40年以上になります。橋梁工学を専攻する大学院学生として平井敦・伊藤学両先生にご指導頂き、宮田利雄先生、久保喜延先生などの優れた先輩・同僚と将来の本四連絡橋を夢見ながら風洞実験室で屯して居たのが始まりでした。そのうちPDF 研究員としてカナダの西オンタリオ大学に留学する機会があり、ボスのアラン・ダヴェンポート教授の指導のもと、比較的年齢層の薄い若い研究者たちと共に、新しい環境と強い刺激の中で様々な風工学プロジェクトに参加する体験を積みました。7年間に亘る境界層風洞実験室での毎日は日々に目覚めて行くような経験でした。

1979年からはカナダのオタワ大学で教鞭をとる一方で、研究費を獲得する為の仕事として構造物の対風挙動などに興味を持っていました。近くに連邦政府の研究機関であるNRCCがあり、特に空気力学と構造の両分野にはボブ・ワードロウ氏を始めとする優れた研究陣があり、橋梁に限らず風がテーマとして入ってくる問題ではよく協力させてもらいました。1990年になって、デンマーク海事研究所から依頼されてストアベルト吊橋の耐風問題に関するコンサルタントを勤める機会があり、エリック・ヒヨルドハンセン、ニルス・ギムシンク両教授やアラン・ラーセン氏をはじめとする北欧の優れた研究者達と知り合い、貴重な勉強をし

ました。更にその頃、仕事を通じて知り合ったウィーンの技術者、ヘルムト・ヴェンツェル氏と、風の問題を含む構造動力学的の問題に協力して仕事をする事になり、それは極く最近まで続いて居りました。

私の仕事はこのように40年来、殆ど国外でしたが、実は日本風工学会の前身である風工学研究会が発足した頃以来の「海外在住」メンバーとして、多くの会員諸氏から友人として扱って頂き、有難く存じて居ります。日本風工学会はその歴史を通じて、この分野では世界で最も先進的な組織であり、この組織に認識されることは私にとってかけがえの無い名誉であります。

会員諸氏のご好意に重ねて御礼申し上げます。今後ともどうぞ宜しく願い申し上げます。

* オタワ大学 名誉教授
Professor Emeritus, University of Ottawa